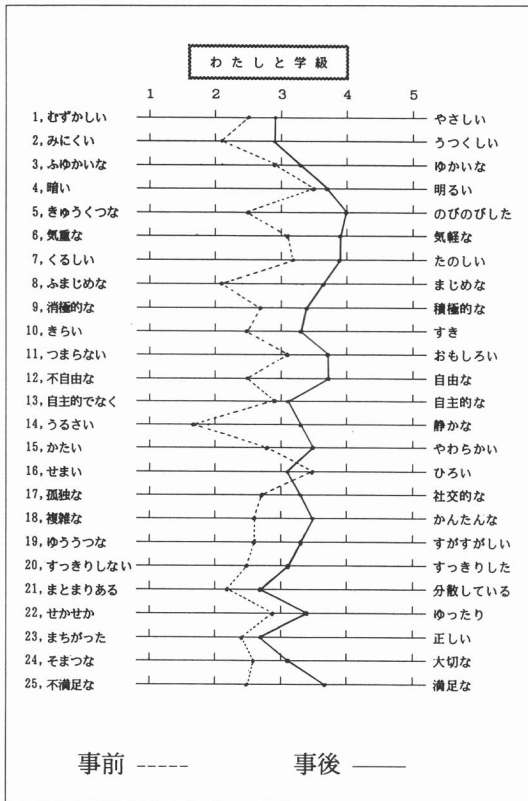


事後3.3であり、プラス方向への変容が認められた。



③ 教師の変容

C教諭は、学年だよりで「みんなで歌った。みんなで走った。そして、みんなでつくった祭。それが今年の白雲祭でした。学級展や各種の発表・作品展もすばらしく、特に2年生の活躍ぶりは、大いに目を見張るものがありました。」と評価した。

これは、学校祭における学級の取り組みが成功した証である。

また、目標の設定段階での、生徒一人一人に対する指導・援助によって「生徒の意識が変わり、学級がまとまったこと」や、学級展の企画・運営段階からの「今まで見いだすことができなかった生徒のよさを発見することができた」ことについて、C教諭は、「学級の目標、私の目標に向かって一人一人が真剣に取り組む姿がありました。これを契機として、今後更に皆さんの活躍を期待す

るとともに、企画運営にあたった一人一人に心からごろうさまの言葉をおくりたい」と述べている。このことから、今後の学級経営にかける教師の意気込みを読み取ることができる。

(4) 実践した内容と各視点との関連

内容	視点	1	2	3	4
目標設定、評価		○	○	○	○
学級展の企画・運営			○	○	

(5) 考察

本事例をとおして、「個の存在を認め、個の存在を大切にする方法」と「情意的側面の評価の在り方」に関して、次のことが明らかになった。

① 目標設定は、短期間で達成可能な具体的な目標とし、教師は、生徒一人一人の目標について指導・援助を行う。

② 一人一人の目標について、短学活等で自己評価させるとともに、達成状況等を発表させる場を設ける。

③ 目標達成まで賞賛や励ましの言葉をかける。

④ 行事の企画・運営への参加をとおして、生徒一人一人の「よさ」を見だし、認め、ほめる。

これらは、視点1、3だけに有効に働く手だてではなく、視点2の「個の特性をとらえ、生かす内容・方法を明確にする」手だてとしても有効であることが明らかになった。また、教師の

○ 「生徒をより分かっていながら、より多くの機会をとらえて指導・援助する」

○ 「目立ちにくい子についても、より多面的にとらえ、よさに気づかせる」

などの指導・援助は生徒に勇気と自信を与え、その効果として学校生活を生き生きと送っている姿を認めることができる。このことから、他の視点にかかわる手だてへの広がりをも認めることができた。